

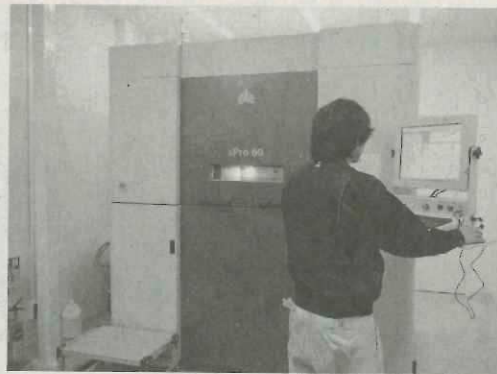
車部品検査治具製造

3Dプリンター導入

KYOEI 工程・工数3割削減

【横浜】KYOEI（神奈川県綾瀬市、高崎将一社長、0467-76-1118）は、自動車部品検査治具の製造工程にレーザー焼結式3Dプリンターを導入し試験運転を始めた。数年後には製造工程や工数の削減を実現し、それぞれ従来比20〜30%減を目指す。さらに切削くずの廃棄コストを削減するほか、加工工程を減らして現場作業員の働きやすさも向上する。

約6000万円を投じて導入したのは米3Dプリンター導入したの器。0.1mm以下の材料を焼結・硬化させ、製造品の最大サイズは縦30mm×横30mm



約6000万円を投じて導入したの器。0.1mm以下の材料を焼結・硬化させ、製造品の最大サイズは縦30mm×横30mm

高さ40mm。材料は群栄化学工業（群馬県高崎市）が開発した。通常のナイロン素材にカーボンの粒子を混ぜ込んだ特殊な素材を使用する。

自動車部品検査治具は、自動車部品と治具を合わせることで縦・横・高さ、厚さなどを測るのに用いる。検査治具は設計、材料加工、測定、仕上げという工程を踏む。ただ、設備やソフトウェアを更新しても工数が減らないほか、「購入した材料のうち製品になるのは3〜4割。残りは切削くずとして費用をと

かけて捨てる」（高崎社長）とコスト面の課題があった。2017年度のものづくり補助金を活用して3Dプリンターを導入し課題解決を図る。

3Dプリンターや切削加工機の操作画面を事務所で一括監視するシステムも同時に導入し、試験運転を始めていく。「数年内に工法を確立して、自動車検査治具の新しい製造方法を実践するパイオニアになりたい」（同）

「助手席SRSエアバッグシステム」と

日産自動車は軽商用車「NT100クリップ」の一部「助手席SRSエアバッグシステム」と

「NT100クリップ」の一部「助手席SRSエアバッグシステム」と

「助手席SRSエアバッグシステム」と

「助手席SRSエアバッグシステム」と

「NT100クリップ」の一部「助手席SRSエアバッグシステム」と

「助手席SRSエアバッグシステム」と

「助手席SRSエアバッグシステム」と

2輪用タイヤ5種投入

ブリヂストン新パターンなど採用

ブリヂストンは30ランド「バトラック」から車種や用途別に設計した5商

性の高い機種がそろった。排気量251cc以上の車種向け。積極的な製

時も従来品よりバイク1台分前止まる。

「同スクーターS C2」はスポーツスクーター向け。曲がるときの安心感を高める溝構造を採用した。「同スクーターSC2

6%減の3万4211台。同9・3%減った全台数に比べて減り方は緩やかで、11年を底に回復基調だ。

内田達也MCタイヤ事業部長は「多彩なバ

「リード125」外観一新 ホンダ

ホンダは30日、排気量125ccクラスのスクーター「リード125」の「外観を一

新し平成28年排出ガス規制に対応させ12月8日に発売すると発表し「外観を一

（LED）ヘッドライトを採用して高級感を持たせ、印象が鮮明な外観とした。消費税込

の価格は3万9960円からで、国内で年間7000台の販売を目指す。

今回の一新に伴いスマートフォンなどを充電できるアクセサリ



「助手席SRSエアバッグシステム」と

ソケットアステット足つき車体色がタイプもリード

4スC単「ee」シー「ee」スハヘルしまし便性